

保育者の精神衛生

神戸頌栄保育短期大学

西 本 脩

「精神衛生」と云う言葉の意味については、既に平井信義氏や、松村康平氏が大変分り易く書いておられますので、それらを読んで頂くことにしまして、こゝでは省略させて頂きます。(文獻1、2)

私は平井氏や松村氏の様に、保育を受ける幼児の側の精神衛生についてではなくて、保育をする者の側から、つまり幼稚園教諭と保育所保育者を含めた保育者の側の精神衛生について述べて見たいと思います。

一、保育者の精神的健康

幼児を保育するに当って、私達保育者の考えなければならぬことは、幼児が保育者自身から直接に受ける所の影響についてです。

保育者の性格や人がらが幼児に与える影響は、幼児が絵本その他の遊具や様々な保育経験から受ける影響よりも、その人格の発達の上に大きな働きを持っているからです。幼児ほどの様な保育経験が与えられても、それよりも生きた人間としての保育者——而も幼児にとつては絶対的な存在である保育者——から直接に受けとるものが

非常に多いのです。保育者が健康であることを求められるのは、幼児に対する保育の効果を高める為ばかりではなくて、幼児によい影響を与えるという見地からでもあります。

特に保育者の持つている病気を幼児に感染させる様なことがあってはいけないので、保育者の健康に特別な注意を払う必要があります。けれども身体的健康が必要なことは、単にその面だけに止まるものではなくて、更に深く、人格的健康——つまり精神的健康と云う一層重要な面にも関係するものであります。身体が健康であればおのずから心も明朗快活であり、仕事に熱意を持ち、喜びを持つて努めることが出来ますが、反対に若しも身体に欠陥や異常がある場合には、保育者を非常に神経質にしたり、いらだたしくして、幼児に対して圧迫的な態度をとつたり、又は逆に放任的な態度で望むことにならないとも限らないからです。

保育者が情緒的に均衡のとれた、調和のある人格をそなえていることは絶対に必要なことです。病的な状態と迄は行かなくとも、神経上の異常を持っていたり、幼児に対して圧迫的であったり、幼児

に對する関心を持っていないことは、幼児の人格の発達に大きな影響を与えるものであります。保育者の情緒的健康さ、つまり保育者の精神的健康は幼児の精神的健康に直ちに反映すると云つて差支えないでしょう。例えばある人々は、組の幼児達を見れば、担任の保育者に会わないでも、たやすくその人がらを知ることが出来る云々云々しています、私達は幼児達がある先生の組ではのびのびと楽しんでしまっているのに、他の先生の組ではおじくした態度になつて、思うこともろくく云えないで、ちじかんでしまつてゐる例をしばしば見聞しています。如何に保育者の人がらが、その組の幼児の人がらに影響を与えるものであるかと云うことは、以上の事がらによつても知られます。

単に幼児達にお歌やお遊戯等を教えればすんだ様な過去の幼稚園・保育所や、固定したプログラムで観察の時間・手技の時間等というようにして子供に知識だけを注入していた旧式の保育では、保育者の性格や人がらの問題はさほど迄大きくとり上げられませんでした。(極端な場合には、字や数のおけいこの時間と称して、字や数を教え込む小学校の予備校的な保育が行われていました。尙殘念なことには、この様な過去の幼稚園・保育所や旧式の保育が現在でも全く跡を絶つてはおらないと云うことです。けれども児童心理学の進歩によつて、幼児の心理の特徴としての未分化性・情緒性と云うことが明らかにされました。幼児は何か心配ごとがあつたり、不安定ないら／＼した気持の場合には、いつもならすぐ出来ることでも、思うように出来ず、又仲々しようとしません。このことは誰でも周知の事実でしょう。まして今日の様に、保育のゆきが、単なる

知識の伝達ではなくて、幼児の身体的・知的・情緒的及び社会的方面を含めた全体的な人格の円満な調和のとれた発達を助けることにある幼稚園・保育所では、保育の計画が広い範圍で考えられ、非常に力動的な性格を持つてゐるのです。

したがつて、ここでは、広い教養を持つた、洞察力のある保育者が必要とされています。単に保育上必要な知識や技能を持つて、これを画一的に区分された保育計画の枠の中にはめ込んで、上手に教え込むだけの保育者では間に合なくなつてきました。豊かな環境の中でいつも新鮮な気持で、楽しく遊ぶことが出来る様に、子供達を保育し得る保育者が要求される様になりました。特に幼稚園・保育所では、幼児の自己生活が中心となり、保育者は蔭の力となつてゆかなければならないのです。幼児が何の不安もなく、喜んで遊ぶことが出来る様な環境を与える為には、保育者——その人がら——の如何が決定的な役割を持つております。

近頃、幼児や保育者の精神衛生の問題、又幼児の精神衛生或いは精神的健康と保育者の資質との關係が、保育上の重要な問題として盛んに論議される様になつて來ましたのも、当然なことと云わなければなりません。

二、保育者の社会的制約

こゝで先ず私達は、保育者が保育者である前に一個の人間であり社会的人間であることを考えなければなりません。したがつて、保育者も又普通の人と同じ様に、家庭生活も営み、社会生活を持つてゐるわけであり、その生活過程においては、一般の人と同じ基本的

要求の満足を求めます。若し何かの制約を受けて、この要求が満足を得られず阻止される時には、それを解決する為に、種々の問題に直面し、人間としての煩悶や問題に悩むものです。そしてこの様な場合には、精神的に不健康な状態になり易いのです。つまり保育者といえども一般の人と同じ適応の問題を持っており、その原因も又同じなのです。

けれども、保育者としての精神的不適応が問題になる原因は、保育者と云う職業の為に生じる社会的制約が、人間としての保育者の要求を阻む為であつて、保育者であるが故に加わってくる社会的圧力が、他の職業に較べて不当であると感ぜられる所に原因があるのです。そこで次に保育者がどの様な社会的制約を受けているかを考えて見ましよう。

1、経済的安定のないこと。保育者ばかりでなく、一般に教員と云えば俸給が低いものと相場が決つていますが、中でも幼稚園教諭は最も低く、保育所保育の待遇も、その仕事の重要性の割に著しく悪い。それにも拘らず、対世間的な立場からは、保育者は相当な生活維持する必要がある、又研究の必要もあるので、こゝに矛盾が出てきます。

2、社会的評価の低いことと高い道德水準を要求されること。保育者に対する社会的評価は必ずしも高くありません。これは一つには、前に述べた俸給が一般に低いことが大いに関係しているかも知れませんが、例年、保育者養成学校（学芸大学・教育学部・短期大学・養成所等）への志望者が非常に少ないこと等も考え合せて見ると、一般的に云つて、若い女性には魅力の少ない職業と云つてもよ

いでしよ。

その様に社会的評価が低いにも拘らず、社会が保育者に求める道德的水準は極めて高く厳格なものであります。例えば、保育者であるが故に「自由に娯楽を樂しむことが出来ない」「自由な男女の交際も出来ない」「服装についてもいつも気がねする」と云う保育者の声は保育者の自由な行動要求を阻むものです。勿論保育者の職が神聖なものでありますから、それに従う人にも高い道德を要求するのだと云うわけでしょうが、これは他の職業人に較べて、不当に保育者に道德的制約を加えていると云うことは否定出来ません。まして一方では、「先生と云われる程の馬鹿ではなし」と云う立場をとりながら、他方では、「先生のくせに……」と云う判断を下すとすれば、保育者の人間としての要求が阻止されることが多いわけですから、こゝに角、こゝで保育者は保育者（先生）と人間との立場の矛盾に苦しむこととなります。

3、理想と現実との矛盾。保育は高い理想を持って、その実現に努力をしなければなりません。けれども一方、現実理想を隔ることほど遠く、到底保育の理想は得られようもありません。しかも、この問題を解決しなければならぬ所に保育者の悩みがあります。

4、保育者に対する理解の不足。世間の人は、保育者は小さな子供を相手に遊んでおればよいのだし、勤務の時間も比較的少なく、毎週の日曜日の休みの他に長い休暇に恵まれ、大した経験や知識や技術も必要としない職業だから、こんな楽な、のんきな仕事はないと考えています。（こゝに保育者を社会的に低く評価する一つの原因があります。）けれども、成程保育の時間だけを考えれば他の職業

よりも少ないかも知れませんが、なすべき仕事は現実には幼稚園・保育所では処置し切れない程であり、翌日の計画から、次の日の準備その他日常の仕事の他に、保育者として当然持つべき教養を高める為には勉強もしなければならず、学芸・技能に秀いでなければなりません。数十人の幼い魂をあずかって、その一つでも傷つけない様にする為には、並々ならぬ努力が必要なのであります。ですから、むしろ保育者はリクリエーションの必要性が最も大きい職業でありながら、その様な設備は全くありませんし、余裕もありません。保育者が良心的であればある程、悩まざるを得なくなつて来るわけです。

5、いつも未成熟者を相手にしていること。保育者は年中幼児——つまり未成熟者と接している為、いつも彼等の理解を求める為のおのずからその言動が子供のになり、思考の方法も単純になる傾向があります。しかも、幼児に対しては絶対的存在として、いつも断定的な判断を下し、それが又受け入れられて行くと云う事情の為に保育者に特有の態度、つまり独断的であるとか、偏狭であるとか、単純幼稚であるとか云う様な人格が出来てしまします。

以上、保育者の受けている制約——逆に云えば、職業としての保育者の社会的な位置について述べたわけですが、この様な制約をこうむっていると云うことに対しては、社会に問うばかりでなくて、保育者自身にも反省すべき点が多くあると思われまします。

三、保育者の不適応とその原因

前にも述べました様に、問題の子供が問題の親に原因があるのと

同じ意味で、幼児の不適応（精神的不健康）は保育者の不適応と深いつながりを持っています。保育者がどれだけ不適応に悩んでいるかについては、今迄になされた調査がないので、はっきりとした数は分りませんが、小学校教師についてなされた調査が参考になるでしょう。

例えば、フェントン (Fenton) は、「教育実践における精神衛生」と云う著書において、「教師は他の種類の職業人に較べると、より大きな割合と云う程は、精神的疾患を悪化させていないし、又精神病院より多い比率で入院してもいない。けれども、学校組織についてみると、児童にとつて学校生活の長い年月の間、彼の僚友ともなり、指導者ともならなければならない教師の人がらとして、精神衛生家が望んでいる資質から、遙かかけ離れた人がらを持つている教師が非常に多いことは明らかである」と述べ、二四一名の教師を調査した結果、七七・六%のものが、精神的に健康であつて、一五・四%は、精神的不適応の為に教職的活動に全く不向きであると述べています。我が国には、この種の調査は少ないですが、堀内敏夫氏が東京都内の小学校教師五七名に対して、問題の教師を挙げさせた結果では、全職員数概略一一四〇名の中から、一〇九名の不適応教師が挙げられました。その割合は九・六%で、アメリカに於けるよりも少なくなっています。又これらの問題の教師の不適応性を教の多いものから挙げますと、女教師の不適応行動には、教育上の知識・能力・愛情の欠けている者、欠席、えこひいき、高慢・自我が強い・独善的・他人の意見を聞かない者、感情的・ヒステリー陰険・意地が悪い・干渉好き、誰にも交わらない、異性関係、過激

な言動、巧言・乱暴な言葉遣い、服装・化粧が派手過ぎる、の順になつていきます。

以上の調査は小学校教師についてなされたものですから、その結果をそのまゝ、保育者に当てはめることは出来ませんけれども、実際には、問題を持った保育者がかなり多くいる様に思われます。

前にも述べました様に、保育者の要求が満たされるか、満たされないかと云うことが、保育者の行動の適応・不適応を決めます。この教師の不適応の原因を調査したものに、一九四〇年のアメリカ国民教育協会（NEA）の報告があります。それによりますと、1、要求される仕事が過大であること。2、給料が低いこと。3、在職年限が安定していないこと。4、常にも他の人々の仕事を引き受けなければならないこと。5、校外の生活についても厳格な拘束を受けること。6、圧迫的な、専制的な指導や管理を受けること。7、一般大衆から遊離していること。8、細かなことにまで注意を払わなければならないこと。9、常に未成熟な者と接触しなければならないこと。等が教師の不適応の原因として挙げられています。ここに挙げられた多くの項目は、我が国の保育者についても当てはまるでしょう。私は大阪・神戸両市の幼稚園教諭三五〇名について、「現在どんな問題に悩んだり、不満に思っているか」の調査を行いました。詳細は文献を見て頂きましょう。

私達は一般に何かの要求が阻止された場合に、不適応を生じ易いのですけれども、この様な場合にはいつも不適応を生ずるとは限りません。要求が満たされない場合に、よく耐えて、或いは色々と解決の工夫をして、その試練を乗り越えて行く場合もあります。そ

れによって努力が生じ、進歩があらわれてきます。人生の航路に艱難のあることが、かえつてその人物を玉にするのですから、要求が阻止されると云うことは、不適応性にも、適応性にも発展するものであると云うことが出来るでしょう。

そこで、保育者が日常現実的に体験している悩みや不満を、どの様に克服して、精神的健康を保つかと云うことが問題になります。このことは又後程述べましょう。

（次号へつづく）

◇ 日保連会長の辞任 ◇

日本保育連合会会長倉橋惣三氏は、健康上の理由により、此のたび同会長を辞退せられた。

◇ 故土川五郎先生追悼会 ◇

東京瑞穂幼稚園長、昭和保姆養成所長、土川五郎先生の幼児教育に、又保姆育成の上の功績は大きい。殊に「律動遊戯」の創作と普及の見事なる活動は、土川氏の名を天下にユニークにするものである。長逝後、友人の間に追慕の情は年と共に濃密であったが、六月二十三日、午后六時からその追悼の会が多数の旧知友人の発起によつて、東京芝増上寺内、明德幼稚園を会場として土川氏夫人をお招きして行われた。

もとの養成所出身者多数の参会と共に、岸辺、倉橋惣三諸氏の追悼の辞及び追憶談があり、八時、会を閉じた。

尙未亡人は令息正浩氏（国立音楽学校長）未亡人の実家、志賀直哉氏方に安泰なる朝夕を送られ、もっぱら故人の冥福を祈っています。